

2021年の8月は雨続き

2021年の8月は、前半は高温、後半は雨続きと、野菜作りにはつらい夏でした。

初めて経験する雨

今年の8月は、前半は暑い日が多かったですが、11日を境に一転して、雨と曇りの8月となりました。日降水量(一日の降水量)は、12日が77mm、13日が132mm、14日は154.5mmでした。世羅の8月の日降水量としては、14日が観測史上1位、13日が3位、12日が9位となりました。また、8月の合計降水量は、平年降水量124.5mmの4倍に近い489.5mmとなり、1980年8月の532mmに次ぐ2番目の降水量でした。

ハウスの中にも水が

降水量が多くなってきた13日ころから、ハウスの中の通路(畝間)に、水が染みあがってくるようになり、いつもは乾いて白っぽい色の地面が、水まきをした後のような赤茶色になりました。ハウスの中にある里芋保管用の地下倉庫は、染み出てくる水で水位が一晩で40cmくらい上がるので、毎日排水をしていました。水が入ってこなくなったのは、23日を過ぎてからでした。

野菜への影響

11日以降ナス、ピーマン、ミニトマト、キュウリ、オクラなどが、過湿と日照不足の影響か、収穫できなくなり、耐水性のあまり強くないゴボウが傷んでしまいました。20日くらいから雨もやみ、日照も回復してきて、月末になってナスやキュウリの収穫ができるようになってきましたが、傷んでしまったゴボウは回復しないので、傷みが広がらないうちに、急いで収穫しています。

2020年の猛暑と比べてみると

世羅の気象データを見てみると、今年8月前半は日照時間もあり、気温も高かったのが、6日くらいから日照・気温ともに減少をはじめ、11日以降は日照時間のない時期が、2週間くらい続きました。

猛暑だった昨年の8月と比べてみると、月前半は今年のほうが日照時間が多く、気温も高かったのですが、11日以降は、日照時間がなくなり、最高気温は25℃くらいになっています。

2014年の冷夏と比べてみると

3番目は、直近の冷夏の年(2014年)のグラフです。この年は、広島県で豪雨災害が発生し、世羅町でも、小さな土砂崩れが何か所も起こり、道路が通れなくなったりしました。最高気温は、8月を通して、平年値より低かったものの、今年のように25℃を下回ることなく、日照時間が0になる日は少なかったようです。夏野菜の被害も今年ほどではなかったと思います。

改めて、気象データを見てみると10年に1回くらいは、冷夏と呼ばれる年があるようです。今年のような気候は、これからもあると思います。そうなったときに今回のように全滅に近い被害にならないよう、品種や植え方、場所なども考えていく必要を強く感じた夏でした。

